令和５年度第１回紀南地域高等学校活性化推進協議会

配　付　資　料

○ 令和５年度紀南地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・・・・Ｐ1

○ 紀南地域高等学校活性化推進協議会設置要綱・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ2

○【資料１】令和４年度第６回紀南地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・・Ｐ3

○【資料２】木本高校・紀南高校卒業者の進路状況・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ6

○【資料３】木本高等学校の活性化にかかる主な取組について・・・・・・・・・・Ｐ１０

○【資料４】紀南高等学校の活性化にかかる主な取組について・・・・・・・・・・Ｐ１２

○【資料５】東紀州地域の高等学校への進学希望状況比較と入学者数・・・・・・Ｐ１４

○【資料６】東紀州地域　中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減）・・・・・・Ｐ１８

○【資料７】熊野市・南牟婁郡中学校卒業者数（予測）と
　　木本・紀南両高等学校への入学者数・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１９

○【資料８】令和５年度の協議について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２０

○【資料９】紀南地域新高等学校ワーキング会議の検討状況・・・・・・・・・・・Ｐ２２

○【資料１０】紀南地域新高等学校ワーキング会議概要・・・・・・・・・・・・・Ｐ２６

○【資料１１】紀南地域新高等学校校名選定委員会について（案）・・・・・・・・Ｐ３２

○【追加資料】紀南地域新高等学校のコンセプト（案）・・・・・・・・・・・・・・別紙

【別添資料】

○ 令和４年度紀南地域高等学校活性化推進協議会のまとめ

○ 令和４年度紀南地域の県立高校に関するアンケート結果

○ 県立高等学校活性化計画（令和４年３月策定）

令和５年度　紀南地域高等学校活性化推進協議会　委員名簿

Ｎｏ	区分	所属及び名前	新継
1	学識経験者	三重大学教育学部　教授　　平山　大輔	継続
2	地域有識者	熊野商工会議所　青年部幹事　　森本　健一	継続
3		文恵丸水産　代表　　長山　行文	継続
4		紀宝町商工会　理事　　産屋敷　道博	新
5	市町教育委員会	熊野市教育委員会　教育長　　倉本　勝也	継続
6		御浜町教育委員会　教育長　　辻本　誠一	継続
7		紀宝町教育委員会　教育長　　西　　章	継続
8	小中学校ＰＴＡ代表	紀南ＰＴＡ連合会　会長　　中澤　武	新
9		紀南ＰＴＡ連合会　進路研究委員長　　和田　泰史	新
10	高等学校ＰＴＡ代表	県立木本高等学校ＰＴＡ　会長　　道前　涼太	継続
11		県立紀南高等学校ＰＴＡ　会長　　中嶋　悦雄	継続
12	同窓会・地域代表	県立木本高等学校同窓会　会長　　森岡　忠雄	継続
13		県立紀南高等学校　学校運営協議会　会長　　山本 章彦	新
14	小中学校長代表	御浜町立尾呂志学園小・中学校　校長　　髙田　有治	継続
15		紀宝町立相野谷中学校　校長　　矢田　哲也	新
16	小中学校教員代表	御浜町立御浜小学校　教諭　　木下　雄介	新
17		御浜町立阿田和中学校　教諭　　市村　　一	新
18	県立高等学校長	県立木本高等学校　校長　　福田　英成	新
19		県立紀南高等学校　校長　　辻　　孝明	新
20	県立高等学校教員代表	県立紀南高等学校　教諭　　込谷　徳隆	新

紀南地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

（設　置）

第１条　少子化などの社会の変化が著しい中、紀南地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、紀南地域高等学校活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第２条　協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

（１）今後の紀南地域全体における県立高等学校のあり方に関すること

（２）紀南地域の県立高等学校活性化の方策に関すること

（３）施設・設備に関すること

（４）その他検討を要すること

（組　織）

第３条　協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校ＰＴＡ関係者、高等学校ＰＴＡ関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

２　協議会に、会長、副会長を置く。

３　会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。

４　会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。

５　協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（調査委員会）

第４条　協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

２　調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

（会　議）

第５条　協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

２　協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

（その他）

第６条　この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附　則

この要綱は平成２４年　７月１８日から施行する。

この要綱は平成２９年　６月１２日から施行する。

資料１

令和４年度第６回紀南地域高等学校活性化推進協議会の概要

１　日時　　令和５年２月７日（火）19 時 00 分から 21 時 10 分まで

２　場所　　三重県熊野庁舎　大会議室

３　概要

前回に引き続き令和７年度に想定される５学級規模における高校の学びと配置について協議し、さまざまな意見があったものの、協議会として「両校を統合し、４学級＋１学級の校舎制とする」ことにとりまとめ、県教育委員会へ提言しました。

主な意見は次のとおりです。

≪令和７年度の５学級規模における高校の学びと配置のあり方について≫

○　大きな集団の中での教育がより理想的であるため、本来なら１校に統合するほうがよいが、地域のこと、通学のことや、両校のこれまでの教育を継承することの大切さを考えると校舎制はやむをえない。紀南校舎の１学級の学びを充実させるとともに、今後、生徒数がさらに減少する高校のあり方を早い段階から検討することを願い、「４学級＋１学級の校舎制」に賛成する。

○　社会性や人間性の育成にはできるだけ大きな学級規模が望ましいが、学校の選択肢の維持、きめ細かな学びの継承、通学困難となる生徒への配慮等を考えると、１校舎に統合するよりも、「４学級＋１学級の校舎制」で連携していくほうが現実的と考える。

○　両校のよさの継承、通学への配慮、学校運営などを考えると統廃合はいたしかたなく、「４学級＋１学級の校舎制」がベストではないか。両校舎の総合学科の学びに独自性を持たせ、子どもたちがその学びを選択できるようになるとよい。

○　同窓会では、今後の中学生の減を考えると１校舎への統合がよいという意見が多かったが、校舎制での先生や生徒の交流、部活動の工夫によって、今までにない学びをもつ高校としていきたい。

○　子どもたちの学校生活の充実を一番に考えてほしい。そのためには１校に統合して人数の多い方がよいと思うが、経済的な事情への配慮や多くの選択肢の提供という点では、校舎制が妥当ではないか。

○　今後の少子化の進行を考えると本来１校５学級に統合するべきであるが、これまでの協議をふまえると「４学級＋１学級の校舎制」を認めざるを得ない。来年度からの具体的検討の内容については、その経過を適宜報告してもらい、我々地元の声も取り入れて欲しい。

○　紀南校舎１学級の学びの内容は今後の検討課題とされているが、本当にうまくいくのか疑問が残る。統合はやむなしだが、４学級と１学級とすることには反対である。

○　校舎制としても紀南校舎の１学級は、多様な生徒との出会いが少ないという面で現実的でない。木本校舎は主に大学進学、紀南校舎は主に専門学校進学や就職を希望する生徒が学ぶ学校として３学級と２学級にしてはどうか。紀南高校は地域と一緒に取り組んできた成果で志願者が多くなっており、それをふまえた学級編成を県に期待する。

○　「４学級＋１学級の校舎制」は、これまで協議してきたことやアンケートの結果をふまえた案だとは理解できるが、賛成も納得もできない。平成 27 年ごろ、協議会で検討していた「統合して新校舎を建てよう」という時のような希望を持った気持ちにはなれない。

○　地域と一体となって活動している木本高校野球部のような良い文化と同様に、紀南高校にも地域とつながる良い文化がある。紀南校舎が１学級になると地域の人たちとのコミュニケーションが少なくなるだけでなく、次は無くなってしまうのではないかという不安がある。

○　この協議会ではこれまで長い間両校の統合は避けられないとしながらも、結論を先送りしてきた。今後は、生徒が学びたい学校となるよう、子どもたちの目線でニーズをしっかりとふまえた学びを考え、地域の子どもたちを地域で育てられる高校をつくってもらいたい。

○　４学級と１学級の校舎制により、学びを充実させていくことは良いが、次の学級減で紀南校舎の１学級がなくなることありきであってはならない。

○　中学生が進路選択する時に、どちらの校舎に行っても成長できると感じられるようにする必要がある。そのために１学級を少人数学級として２学級にするなど、40 人定員にこだわらない柔軟な対応を求めたい。そうすることで現在想定されている次の学級減の時に、校舎制の取組が充実して魅力ある高校になり、学級減を回避できるようになってほしい。

○　校舎は２つとなっても統合して教員も連携することで、この地域の生徒の学びが保障できる。この地域には、きめ細かな学びを求めている生徒がたくさんいることから、教員配置には配慮してもらいたい。

○　統廃合の形の議論だけで終わらず、どのような学校とするかという学びの具体化こそもっと議論をしていくべきである。学びの選択肢を広げ、木本高校定時制も含めた再編活性化も考えるべきではないか。

○　木本高校では、地元の部活動や大学進学へのニーズへの対応に加え、地域課題解決型学習や STEAM 教育にも力を入れている。今後は２校が連携しながら、これらの学びにより、地域の子どもたちの可能性を広げていきたい。

○　紀南高校の学びである防災リーダーや看護・福祉に携わる人材の育成については、両校が連携することでより広がりを持つことができる。現在あるコミュニティスクールを維持しながら、今後も地域とともに子どもたちを育んでいきたい。

○　この地域の子どもたちの思いが反映できるよう、４学級と１学級であっても、学びのあり方や部活動など柔軟に対応できるような検討をして欲しい。

○　これから入学する子どもたちの夢や希望に応えられる教育環境を作ってもらいたい。

○　現在の両校の魅力をより高めて欲しい。今後検討していく学びの具体的な内容については協議会でも情報共有し、一緒に議論できればよい。

○　子どもたちにとって、より良い学校となるよう検討を進めてほしい。小中学校の保護者から１学級規模の校舎では教育の質の低下が心配だという意見もあり、学びのコンセプトをしっかり確立したうえで教員配置を手厚くしてもらいたい。また、多くの生徒が通学することとなる４学級規模の校舎も同様にしっかりとした学びを進める必要がある。

○　協議会では様々な意見があったが、概ね「４学級＋１学級の校舎制」を支持する意見が多かった。今後は子どもたちの豊かな未来を実現していくために、紀南地域が一体となってこれからの子どもたちの学びを支えて欲しい。

４　今後の進め方

「木本高校と紀南高校を統合して校舎制とし、普通科３学級を木本校舎に、総合学科１学級を木本校舎及び紀南校舎にそれぞれ配置する」という協議会での意見集約を受け、両校関係者を中心に木本高校と紀南高校の統合に向けた具体的な検討や準備をはじめるとともに、その内容については来年度の協議会でも協議していきます。

木本高校・紀南高校卒業者の進路状況

資料２ ①

１ａ　木本高校普通科

卒業年度	卒業者数		四年制大学	うち国公立	短期大学等	専修学校	各種学校	就職	東紀州地域(含近隣県外)	県内他地域	県外(除近隣県外)	その他	看護大高看准看
令和４年度	117	人数	76	(22)	6	29	0	5	(2)	(2)	(1)	1	(9)
		(%)	65.0	(18.8)	5.1	24.8	0.0	4.3	(1.7)	(1.7)	(0.9)	0.9	(7.7)
令和３年度	119	人数	73	(14)	8	31	1	5	(4)	(0)	(1)	1	(18)
		(%)	61.3	(11.8)	6.7	26.1	0.8	4.2	(3.4)	(0.0)	(0.8)	0.8	(15.1)
令和２年度	110	人数	65	(11)	6	33	3	3	(1)	(1)	(1)	0	(17)
		(%)	59.1	(10.0)	5.5	30.0	2.7	2.7	(0.9)	(0.9)	(0.9)	0.0	(15.5)
令和元年度	114	人数	70	(20)	8	22	2	10	(3)	(1)	(6)	2	(17)
		(%)	61.4	(17.5)	7.0	19.3	1.8	8.8	(2.6)	(0.9)	(5.3)	1.8	(14.9)
平成30年度	120	人数	69	(20)	13	24	0	11	(5)	(3)	(3)	3	(12)
		(%)	57.5	(16.7)	10.8	20.0	0.0	9.2	(4.2)	(2.5)	(2.5)	2.5	(10.0)

１ｂ　木本高校総合学科

卒業年度	卒業者数		四年制大学	うち国公立	短期大学等	専修学校	各種学校	就職	東紀州地域(含近隣県外)	県内他地域	県外(除近隣県外)	その他	看護大高看准看
令和４年度	37	人数	6	(0)	3	19	0	8	(6)	(1)	(1)	1	(3)
		(%)	16.2	(0.0)	8.1	51.4	0.0	21.6	(16.2)	(2.7)	(2.7)	2.7	(8.1)
令和３年度	80	人数	19	(0)	12	28	0	14	(4)	(3)	(7)	7	(10)
		(%)	23.8	(0.0)	15.0	35.0	0.0	17.5	(5.0)	(3.8)	(8.8)	8.8	(12.5)
令和２年度	78	人数	11	(0)	9	34	0	23	(6)	(6)	(11)	1	(9)
		(%)	14.1	(0.0)	11.5	43.6	0.0	29.5	(7.7)	(7.7)	(14.1)	1.3	(11.5)
令和元年度	76	人数	7	(0)	5	33	1	28	(3)	(5)	(20)	2	(4)
		(%)	9.2	(0.0)	6.6	43.4	1.3	36.8	(3.9)	(6.6)	(26.3)	2.6	(5.3)
平成30年度	80	人数	19	(0)	1	32	0	24	(7)	(10)	(7)	4	(9)
		(%)	23.8	(0.0)	1.3	40.0	0.0	30.0	(8.8)	(12.5)	(8.8)	5.0	(11.3)

２　紀南高校

卒業年度	卒業者数		四年制大学	うち国公立	短期大学等	専修学校	各種学校	就職	東紀州地域(含近隣県外)	県内他地域	県外(除近隣県外)	その他	看護大高看准看
令和４年度	47	人数	1	(0)	3	14	0	24	(14)	(5)	(5)	5	(3)
		(%)	2.1	(0.0)	6.4	29.8	0.0	51.1	(29.8)	(10.6)	(10.6)	10.6	(6.4)
令和３年度	51	人数	1	(0)	4	16	0	27	(15)	(4)	(8)	3	(4)
		(%)	2.0	(0.0)	7.8	31.4	0.0	52.9	(29.4)	(7.8)	(15.7)	5.9	(7.8)
令和２年度	75	人数	1	(0)	7	15	0	45	(18)	(14)	(13)	7	(4)
		(%)	1.3	(0.0)	9.3	20.0	0.0	60.0	(24.0)	(18.7)	(17.3)	9.3	(5.3)
令和元年度	93	人数	7	(0)	13	22	0	44	(19)	(10)	(15)	7	(7)
		(%)	7.5	(0.0)	14.0	23.7	0.0	47.3	(20.4)	(10.8)	(16.1)	7.5	(7.5)
平成30年度	103	人数	7	(1)	5	29	0	58	(14)	(13)	(31)	4	(10)
		(%)	6.8	(1.0)	4.9	28.2	0.0	56.3	(13.6)	(12.6)	(30.1)	3.9	(9.7)

注）「短期大学等」の等は高等専門学校への編入を含む。「各種学校」は、大学等への進学のための「予備校」。

就職の「東紀州地域」には、新宮市等の近隣県外地域を含む。
「その他」には、「公共職業能力開発施設等入学者」、「一時的な仕事に就いた者」のほか、未定者等も含む。

進路合格・内定先一覧（木本高校）

資料2 ②

大学	R3	R4
（国）愛媛大学	1	
（国）大阪教育大学		1
（国）北見工業大学		1
（国）滋賀大学		1
（国）静岡大学		2
（国）千葉大学		1
（国）徳島大学	1	1
（国）大阪大学	2	
（国）広島大学	1	
（国）三重大学	5	6
（国）和歌山大学		1
（公）石川県立大学		2
（公）茨城県立医療科学大学		1
（公）神戸市外国語大学		1
（公）県立広島大学		1
（公）東京都立大学		1
（公）三重県立看護大学	1	1
（公）横浜市立大学	1	1
（公）兵庫県立大学	1	
（公）大阪公立大学	1	
愛知大学	2	
愛知学院大学	4	2
愛知工業大学		1
愛知東宝大学	1	
大阪経済大学	2	
大阪産業大学		1
大阪樟蔭女子大学		1
大阪商業大学	1	
大阪総合保育大学		1
大阪体育大学	1	
大阪医科薬科大学	1	
大阪保健医療大学		1
帝塚山大学	1	
関西外国語大学	1	1
関西学院大学		2
関西福祉科学大学		1
畿央大学		1
京都産業大学	4	2
京都女子大学	1	1
京都芸術大学	1	1
京都橘大学		1
近畿大学		2
皇學館大学	9	5
神戸学院大学		1
神戸薬科大学		1
明治大学	1	
至学館大学		1
静岡理工科学大学		1
椙山女学園大学		2
鈴鹿医療科学大学	10	7
追手門学院大学	1	
大同大学	1	1
中京大学	1	
中部大学		1
帝京科学大学		1
帝塚山大学		1
東海大学	1	2
同志社女子大学		1
同志社大学		1
同朋大学	1	
東洋大学		1
名古屋外国語大学	4	
名古屋学院大学	5	1
修文大学	2	
岐阜聖徳学園	1	
奈良大学		1
奈良学園大学		1
東京薬科大学	1	
日本大学		1
日本赤十字豊田看護大学	2	
日本福祉大学	2	1
人間環境大学	1	
仏教大学		1
武庫川女子大学	1	1
名城大学	5	4
桃山学院大学	1	
大和大学	1	
四日市大学	1	
四日市看護医療大学	1	
立命館大学	3	3
龍谷大学	2	
計	92	82

短期大学	R3	R4
津市立三重短期大学	9	3
愛知文教女子短期大学		1
大阪芸術大短大	1	
関西外国語大学短期大学部	1	2
関西女子短期大学		1
京都文教短期大学		1
国立清水海上技術大学		1
高田短期大学	5	
名古屋短期大学	2	
奈良芸術短期大学	2	
龍谷大短期大学部	1	
産業技術短期大学	1	
計	22	9

専修学校（看護・准看）	R3	R4
国立三重中央看護	3	1
和歌山県立なぎ看護	6	3
愛知県厚生連加茂看護	1	1
愛知県厚生連更生看護	1	
岡波看護	2	
関西看護		2
桑名医師会看護		1
聖十字看護	3	2
桑名医師会立桑名看護専門学校	2	
ペガサス大阪南		1
三重看護	3	1
ユマニテク看護助産	1	
計	22	12

専修学校（看護系以外）	R3	R4
三重県立津高等技術学校		1
国立東名古屋病院附属リハビリテーション		1
公衆衛生学院	2	
奈良県フォレストアカデミー		1
あいち福祉医療		1
愛知美容		1
旭理容美容	1	
伊勢志摩リハビリテーション		2
大阪ウエディング＆ブライダル		1
大阪工業技術	1	
大阪ECO海洋動物	1	2
大阪総合デザイン		1
大阪電子		1
大阪ビューティーアート		1
大阪ブライダル		1
大阪ホテル		1
大原法律公務員　津校	2	4
大原簿記情報医療	2	
関西医科		1
関西美容		1
近畿コンピュータ電子		1
神戸製菓		1
国際医学技術	3	1
湖南馬事センター		1
セントラルトリミングアカデミー	1	
中日美容		1

中部美容	1	
中部リハビリテーション	1	
辻製菓		1
東海医療科学	4	1
東海医療技術	1	
東京ECO海洋動物	1	
東京法律名古屋校	2	
ホンダテクニカルカレッジ関西	1	
トヨタ名古屋自動車大学校	1	
トライデントコンピュータ	2	
名古屋医健スポーツ	1	
名古屋医療情報	1	
名古屋医療秘書福祉		1
名古屋工学院	1	
名古屋ビューティーアート		1
名古屋美容		1
名古屋ユマニテク調理製菓		1
名古屋動物	1	
HAL名古屋	1	
国際観光	1	
東放学園	1	
日本コンピューター学院	1	
日本歯科学院		2
日本自然環境		1
日本デザイナー芸術学院	1	
サンビレッジ国際医療福祉	1	
ミエ・ヘア・アーチストアカデミー	1	
ユマニテク医療福祉大学校	1	
米田柔整	1	1
計	39	36

各種学校	R3	R4
四谷学院	1	
計	1	

就職（公務員）	R3	R4
御浜町役場	1	
熊野消防	1	1
陸上自衛隊	1	
陸上自衛隊一般曹候補生	1	
三重県警察		1
計	4	2

就職（東紀州地域）	R3	R4
インテリアやっと		1
エムアンドエムサービス株式会社		1
熊野精工(株)	2	
新宮信用金庫		1
トタニ印刷所		1
ユウテック（株）	1	
浦島観光ホテル（株）	1	
尾崎畜産御浜ファーム（株）	1	
ホテル季の座		1
日本郵便（株）東海支社	1	2
計	6	7

就職（県内他地域）	R3	R4
トヨタカローラ三重株式会社		1
ニプロファーマ(株)	2	1
計	2	2

就職（県外）	R3	R4
イオンリテール（株）東海名古屋事務所	1	
黒崎播磨株式会社名古屋支店	1	
株式会社J-POWERハイテック	1	
大昌総業株式会社		
大同テクニカ株式会社	1	
ダイハツ工業株式会社	1	
地建興業株式会社		
株式会社デンソー	1	2
東海旅客鉄道株式会社	1	
計	7	2

進路合格・内定先一覧（紀南高校）

資料2 ③

大学	R3	R4
鈴鹿医療科学大学	1	
実践女子大学		1
椙山女学園大学		1
名古屋女子大学		1
計	1	3

短期大学	R3	R4
(公)三重短期大学	3	1
高田短期大学		1
愛知文教女子短期大学	1	
大阪芸術大学短期大学部	1	1
計	5	3

専修学校（看護・准看）	R3	R4
(公)和歌山県立なぎ看護学校	1	2
新宮市医師会准看護学院	1	2
津看護学校	1	
桑名医師会立桑名看護専門学校	1	
計	4	4

専修学校（看護系以外）	R3	R4
東海工業専門学校金山校		1
旭美容専門学校	1	
大原簿記法律専門学校	1	
中和医療専門学校	2	
平成リハビリテーション専門学校	1	
ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	1	
静岡工科自動車大学校	1	
三重県立津高等技術専門学校	2	
京都製菓製パン技術専門学校	1	
アフロートスクール　梅田校	1	
中日美容専門学校	1	
大阪社体スポーツ専門学校	1	
ユマニテク医療福祉大学校		2
京都保育福祉専門学校		1
愛知美容専門学校		1
伊勢理容美容専門学校		2
大原法律公務員専門学校津校		3
神戸ＹＭＣＡ学院専門学校		1
計	13	11

就職（公務員）	R3	R4
航空自衛隊		1
計		1

就職（東紀州地域）	R3	R4
熊野精工(株)	2	3
パナソニックライフソリューソンズ紀南電工(株)	3	1
ＳＷＳ西日本(株)	1	1
日本郵便(株)東海支社	1	
ユウテック（株）	1	1
有限会社紀南石油販売所	1	
紀南病院組合きなん苑	1	
三重交通商事（株）	1	
（株）主婦の店	1	
（有）熊野養魚	1	
三重交通（株）		1
ヤンマーアグリジャパン（株）中部近畿支社		1
（株）緑樹		1
阿田和大敷漁業生産組合		1
（有）みはま介護センター		1
（有）楽らく		1
（株）金山パイロットファーム		1
（株）庵田自動車商会		1
計	13	14

就職（県内他地域）	R3	R4
(株)エクセディ上野事業所	1	
日本梱包運輸倉庫（株）		2
中日本ビルテクノサービス（株）		1
（株）ホンダ四輪販売三重北	1	
ニプロファーマ（株）伊勢工場	1	
（株）ナガシマゴルフ		1
五洋紙工（株）		1
計	3	5

就職（県外）	R3	R4
日鉄物流名古屋(株)	1	
大同テクニカ(株)	1	
フジパン(株)		1
トヨタ車体（株）	1	
（株）ブランシェ	2	1
（株）ワークステーション	1	
住友電工ウインテック（株）	1	
知的障害者総合福祉施設愛の家	1	
（有）ＨＭＣ		1
昭和汽力（株）		1
計	8	4

資料３

木本高等学校の活性化にかかる主な取組について

１　目指す学校像（全日制・定時制共通）

① 自分の良さを伸ばしながら、目標や夢の実現に向けて努力を続ける生徒を育成する。
② 地域に誇りを持ち社会に役立つ人を育み、地域に信頼される学校をめざす。

２　魅力化・活性化の方向性

⑴ 多様な学びの維持・充実（幅広い学力・進路希望への対応）

<table>
<tr><th colspan="3">全日制課程</th><th>定時制課程</th></tr>
<tr><th colspan="2">普通科（３クラス）</th><th>総合学科（１クラス）</th><td rowspan="3">⑤普通科
（１クラス）
４限×４年</td></tr>
<tr><td rowspan="2">① 選抜コース
（文系・理系）</td><td rowspan="2">② 普通コース
（多様な進路に対応）</td><td>③ キャリアコース</td></tr>
<tr><td>④ スタンダードコース</td></tr>
</table>

⑵ 【重点】進路指導と学習指導の充実

① 地域における本校の役割は、「地域で学んで自己実現できるようになる学校」
② 全日制の普通科・総合学科ともに、進学希望者の割合が年々増加

【参考】令和４年度進路状況

	卒業生数	大学（内、国公立）	短大	専修学校	就職	その他
普通科	１１７人	７６人（２２人）	６人	２９人	５人	１人
総合学科	３７人	６人　（０人）	３人	１９人	８人	１人
合計	１５４人	８２人（２２人）	９人	４８人	１３人	２人

→**【進路指導】**クラス担任、進路指導部、教科担任が連携して、きめ細かな個別面談（進路相談）や情報提供を行うことで、全国にある学校等の中から生徒が最適な受験先を選び、さらにその合格に必要な対策を考えられるよう支援する。
→**【学習指導】**自分が本当に目指したいものや学びたいことを見据え、最後まで挑戦し続ける力をつけられるよう、生徒の力を伸ばす授業や個別指導等を実施する。

⑶ できる限り多くの部活動を維持・充実（勉強との両立をめざす！）

【参考】令和５年度に全日制で設置している部活動　　**※本年度入部率７６．９％**

運動系	硬式野球、ソフトテニス、サッカー、ラグビー、卓球、剣道、柔道、体操、男子バスケットボール、女子バドミントン、女子バレーボール
文化系	茶道、書道、吹奏楽、ＪＲＣ、放送、美術、写真、漫画研究

→今年度、寄贈により最先端のトレーニング機具を導入。活動充実への弾みとする。

⑷ 教職員の働き方改革

① 本年度の全日制常勤教職員は４０人。その内、授業を担当しているのは３１人。
② 時間外勤務月４５時間超の教員は１０人前後。その内、８０時間超は３人前後。
→「教職員が元気でなければ、生徒のための良い教育はできない」と考え、積極的に業務の削減・見直し等に取り組み、生徒のための時間と活力を確保する。

３　個別の取組について（学習指導と地域連携活動を中心に）

⑴ 全日制授業公開（年２回実施予定）　※定時制は１１月に実施予定

① １学期の公開授業：令和５年６月１２日（月）～６月１６日（金）に全ての授業を公開

② 参観者アンケート結果

＜参観した授業について＞

○「先生のお話は面白いのに、生徒たちに一方通行なのはもったいない気がしました。クロームブックを使うとか。何か生徒が興味を持つような授業の進め方があるといいなと思いました。」

○「３年生でフローチャートを作っていましたが、プロジェクターで映せば早いのではないでしょうか。説明が少ないと思いました。」

○「説明を聞きながら、どこを参考にして見たら良いのか混乱しているように見えました（地図見ている人、プリント見ている人、教科書見ている人）。」

○「少人数でわかりやすいように思う。進み方が早いので中学生の時とギャップが大きくないですか。大学受験に合わせるとそうなるのでしょうか。補習など、よろしくお願いします。」

○「いつも子供から、楽しくてわかりやすいと聞いています。先生の声もハツラツとはっきり聞こえやすくて、とても良かったです。相談しながら聞いていくというのが、一人で煮詰まらず良いと思いました。」

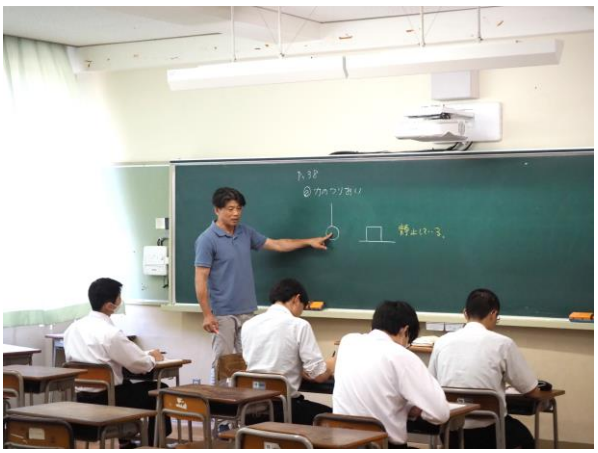
○「書き込みのプリントを作ってくださっているので、勉強しやすそうだと思いました。」

＜公開授業全体を通して＞

○「生徒がまじめに取り組んでいて驚きました。」

○「生徒の皆さんがしっかり聞いていると思いました。」

○「高校生になると、なかなか授業を見せてもらうこともハードルが高くなりますが、他の保護者の方も何人かいらっしゃり、久しぶりに授業を受けた気分になりました。このような機会を設けていただきありがとうございました。」



＜理科（物理）の授業の様子＞

＜国語の授業の様子＞

⑵ その他の主な取組

① **選抜コース進路検討会、選抜コース担任等連絡会**→難関大学進学にチームで対応

② **外部教育サービスの活用**（「Classi」「スタディサプリ」等）→「自主学習力」育成

③ **総合学科生徒による小学校での出前授業**（英語と体育）→学習成果を地域貢献に

④ **地元の中学生・保護者対象の大学進学説明会**→高校卒業後をも見据えた高校選び

⑤ **七里御浜、熊野古道、近隣河川などの清掃活動**→主体性等の育成や郷土愛の涵養

⑥ **県教委「地域を学び場としたＰＢＬ活動の推進」**指定校→地域課題解決型学習

資料４

紀南高等学校の活性化にかかる主な取組について

１　目指す学校像（全日制）

「生徒には希望を　保護者には夢を　地域には信頼を」

〇一人ひとりが自己肯定感をもち、自他ともに認め合える人間関係のなかで、地域に貢献できる力を育む。（グラデュエーション・ポリシー）

２　魅力化・活性化の方向性

（１）多様な学びの充実

地域と協働した教育活動を行い、キャリア教育を充実させ、生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進める。（カリキュラム・ポリシー）

全日制課程：普通科（２クラス）				
総合進学系	地域創造系	医療・看護系	福祉系	ビジネス系

◆１年次：共通授業をとおして、基礎力を身につけ、一人ひとりの可能性を伸ばす。

◆２年次：「就労体験」を始めとした選択授業群から、進路希望や興味・関心に応じて５つの選択授業を受講し、基礎力を身につける。

◆３年次：「地域創造学」を始めとした選択授業群から、２年次の科目選択状況や進路希望、興味・関心に応じて、７つの選択授業を受講し、実践力・応用力を身につける。

（２）キャリア教育の充実

・生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、進路実現に必要な能力や、卒業後の生活への適応力を育成する。

・一人ひとりの適性に応じたきめ細かな指導に努め、進路保障を図る。

・主体的な進路選択ができるような、進路講話・進路ガイダンスを実施する。

【参考】令和４年度卒業生の進路状況

	卒業生数	大学	短大	専門学校	高看	准看	就職	その他
普通科	４７名	１名	３名	１１名	２名	１名	２４名	５名

※就職者２４名のうち、地元企業１４名

（うち１人は２年次の「就労体験」でお世話になった事業所へ就職）

◆「総合的な探究の時間」では、１年次の１学期に地元企業を招いての進路講話、２学期に地元企業説明会や職業体験、大学の出前講座、３学期に働くことや勉強することの意味について地域の大人と話し合う「対話集会」を実施している。

◆「医療・看護系ガイダンス」を始めとする様々な「進路ガイダンス」や外部講師によるプレゼンテーション指導、全教職員による３年次面接指導などを通じて生徒の進路実現を支援している。

（３）部活動の活性化

【参考】令和５年度に設置している部活動　　※本年度入部率５４％

＜体育系＞　硬式野球、ソフトテニス、柔道、卓球、男子バスケットボール、バドミントン、陸上競技（７）

＜文化系＞　ＥＳＳ、家庭、華道・茶道、ＪＲＣ、書道、美術、吹奏楽（７）

※熊野エリア道の駅協議会はじめ、地域との様々な協働活動やボランティア活動に対応するため、令和４年７月から全校生徒が加入するコミュニティ・スクール部を設置している。

（４）教職員の働き方改革

・時間外労働（Ｒ４年度）※常勤職員３０名

◆月４５時間超　年間のべ２１名　実質８名（うち月８０時間超　年間２名）

◆年間３６０時間超　２名

・産業医の指導のもと、校長面談を行い、改善に努めている。

３　特色ある取組について

（１）防災・減災学習

◆防災きにゃんプロジェクトを展開

「震災で悲しみを抱える人をつくらない地域」を目指して、御浜町役場総務課と協働して避難誘導看板を設置する取組。令和４年度は非常持ち出し袋を販売した。令和５年度はその収益を御浜町に寄付することを予定している。

◆三重県学校防災ボランティア事業への参加

本校の「防災ワークショップ」をきっかけにして、東日本大震災の被災地を訪れ、高校生としてできる防災・減災行動について考える取組。２年間でのべ１３名が参加した。

（２）商品開発・販売

令和３年度に熊野エリア道の駅協議会と生徒会が連携し、お菓子やＴシャツの共同開発を手掛け、令和５年度は、糸川屋製菓様と防災食の開発を行っている。

（３）道の駅との協働

パーク七里御浜ピネにて、芸術科の作品展示や読み聞かせボランティア、玄関前のシャッター画の制作などを行っている。

（４）その他

支援が必要な生徒が多く在籍することから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、児童相談所等と連携し、授業観察やカウンセリング、保護者との連携をきめ細かく実施している。

資料５①

東紀州地域の高等学校への進学希望状況比較と入学者数（令和４年７月・１２月希望調査と令和５年度の入学者数）

〈全日制課程〉 R5.3卒

高等学校名	人数	R５入学定員	熊野市 7月	熊野市 12月	熊野市 入学数	御浜町 7月	御浜町 12月	御浜町 入学数	紀宝町 7月	紀宝町 12月	紀宝町 入学数	入学数小計		尾鷲市 7月	尾鷲市 12月	尾鷲市 入学数	紀北町 7月	紀北町 12月	紀北町 入学数	入学数小計	入学数合計
			令和４年の希望調査と令和５年度の入学者数（人数）																		
			各地域別の進学希望と入学人数																		
木本高校		160	71	66	66	45	36	33	43	31	30	129	197	9	7	7	6	2	2	9	138
紀南高校		80	9	10	9	25	28	31	22	25	28	68		3	5	6	3	3	2	8	76
尾鷲高校		160	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		90	89	89	53	49	48	137	137
東紀州地域の計		400	80	76	75	70	64	64	65	56	58	197		102	101	102	62	54	52	154	351
県内	地域外県立高校		1	0	1	3	3	4	0	4	4	9	52	5	5	4	24	20	18	22	31
県内	私立高校		3	4	3	1	3	3	3	1	0	6		2	4	4	9	18	20	24	30
県内	高専		1	2	2	0	0	0	0	0	0	2		1	0	0	1	0	0	0	2
県外	県外高校・高専		5	9	10	3	5	5	15	22	20	35		5	3	4	2	3	3	7	42
県外	（うち和歌山県）※				(7)			(4)			(19)	(30)				(0)			(0)	(0)	(30)
その他（定時制/通信制/就職など）			10	10	10	1	3	3	0	0	1	14		6	7	6	1	5	7	13	27
回答・入学者数の計			100	101	101	78	78	79	83	83	83	263		121	120	120	99	100	100	220	483
卒業者数（人数）					101			79			83	263				120			100	220	483

※和歌山県への進学

（私）近大新宮高校７人

（私）近大新宮高校４人

（公）新宮高校高校６人
（公）新翔高校１人
（私）近大新宮高校１２人

＜参考＞　東紀州地域外の全日制高校・高専への進学者数とその理由

【調査対象】令和5年3月の中学校卒業者 【調査方法】教育政策課による各中学校（熊野市・御浜町・紀宝町）への聞き取り

		主たる進学理由			
		大学進学	部活動	就職	その他
3市町合計	52	24	19	0	9
（うち近大新宮）	(23)	(19)	(3)	(0)	(1)

※部活動の種類
野球、サッカー、ソフトテニス、バスケットボール、ソフトボール、卓球、ダンスなど

資料５②

東紀州地域の高等学校への進学希望状況比較と入学者数（令和３年７月・１２月希望調査と令和４年度の入学者数）

〈全日制課程〉 R4.3卒

高等学校名	人数	R４入学定員	熊野市 7月	熊野市 12月	熊野市 入学数	御浜町 7月	御浜町 12月	御浜町 入学数	紀宝町 7月	紀宝町 12月	紀宝町 入学数	入学数小計		尾鷲市 7月	尾鷲市 12月	尾鷲市 入学数	紀北町 7月	紀北町 12月	紀北町 入学数	入学数小計	入学数合計
			令和３年の希望調査と令和４年度の入学者数（人数）																		
			各地域別の進学希望と入学人数																		
木本高校		160	93	78	75	46	38	35	36	32	30	140	211	12	11	11	11	7	8	19	159
紀南高校		80	6	18	20	16	22	24	30	28	27	71		2	7	6	2	2	2	8	79
尾鷲高校		175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		85	86	87	54	64	65	152	152
東紀州地域の計		415	99	96	95	62	60	59	66	60	57	211		99	104	104	67	73	75	179	390
県内	地域外県立高校		2	1	1	0	1	1	0	0	1	3	40	8	6	5	32	21	19	24	27
県内	私立高校		2	2	2	1	1	1	3	6	6	9		6	6	7	16	20	19	26	35
県内	高専		1	4	4	0	0	0	1	0	0	4		2	3	2	1	1	1	3	7
県外	県外高校・高専		8	10	9	2	2	3	8	12	12	24		4	3	2	0	1	1	3	27
県外	（うち和歌山県）※				(6)			(3)			(10)	(19)				(0)			(0)	(0)	(19)
その他（定時制/通信制/就職など）			8	6	8	2	3	3	4	4	6	17		8	5	7	4	4	6	13	30
回答・入学者数の計			120	119	119	67	67	67	82	82	82	268		127	127	127	120	120	121	248	516
卒業者数（人数）					119			67			82	268				127			121	248	516

※和歌山県への進学

（公）新宮高校１人
（私）信愛高校２人
（私）近大新宮高校３人

（私）近大新宮高校３人

（公）和歌山北高校１人
（公）新翔高校１人
（私）近大新宮高校８人

【調査対象】令和4年3月の中学校卒業者 【調査方法】教育政策課による各中学校（熊野市・御浜町・紀宝町）への聞き取り

		主たる進学理由			
		大学進学	部活動	就職	その他
3市町合計	40	10	20	7	3
（うち近大新宮）	(14)	(10)	(4)	(0)	(0)

※部活動の種類

野球、吹奏楽、テニス、バスケットボール、サッカー、卓球など

資料５③

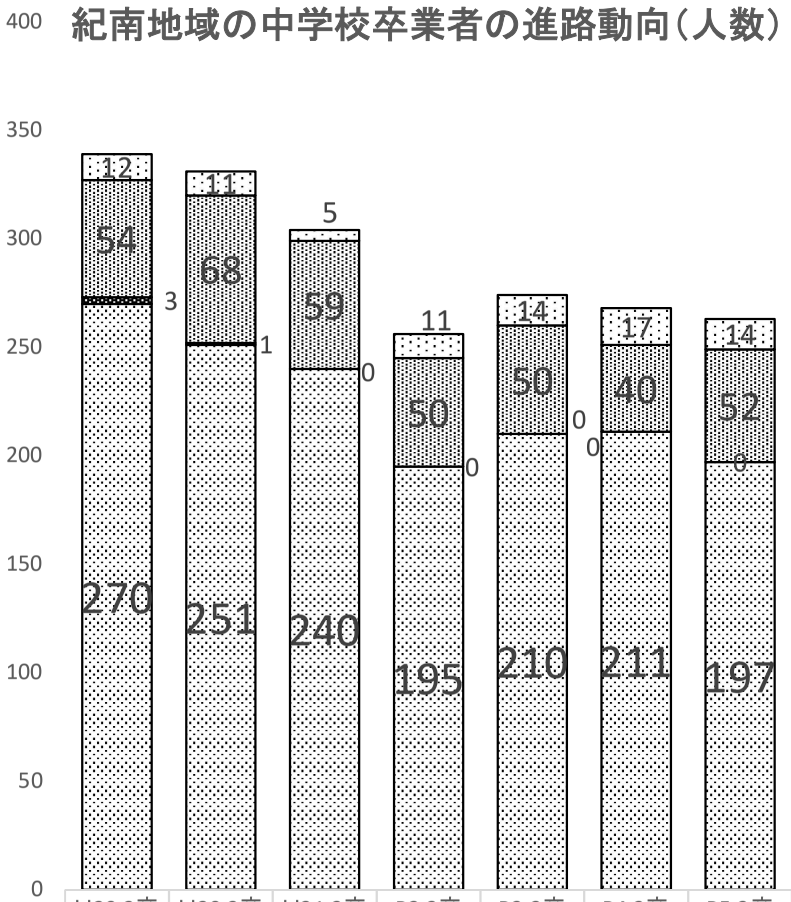
東紀州地域の高等学校への進学希望状況比較と入学者数（令和４年７月・１２月調査と令和５年度の入学者数）の地域別割合（%）

〈全日制課程〉 **R5.3卒**

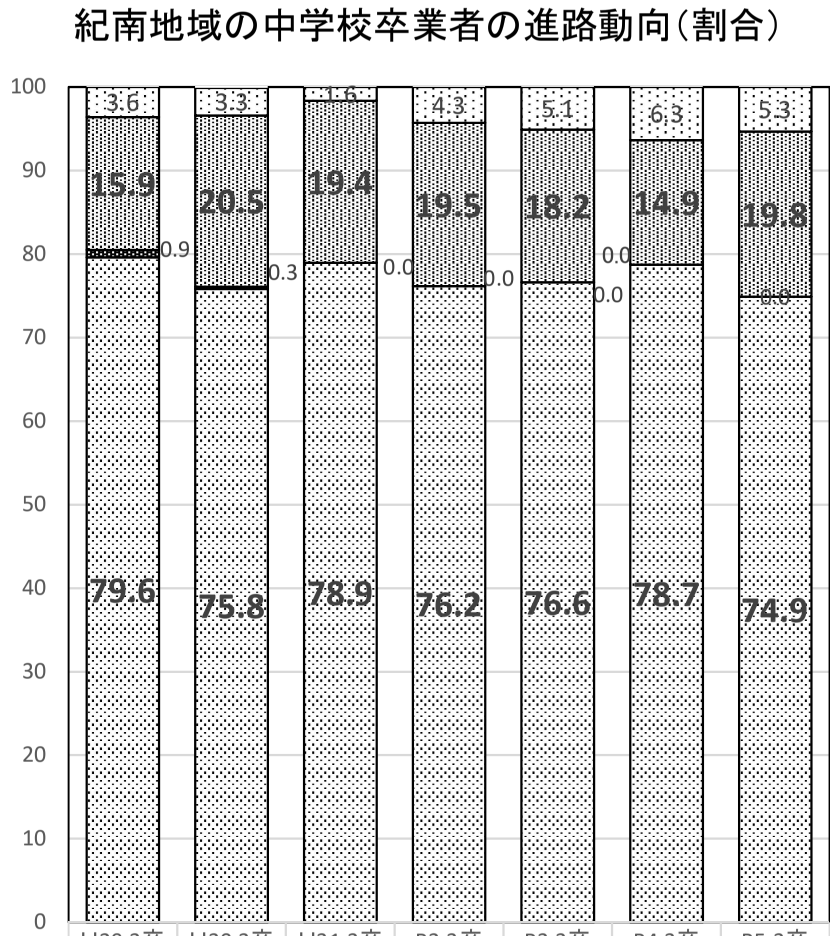
高等学校名	割合%	R５入学定員	令和４年の希望調査と令和５年度の入学者数の地域別卒業者数に対する割合（%） 各地域別の進学希望と入学の割合 熊野市 ７月	熊野市 １２月	熊野市 入学数	御浜町 ７月	御浜町 １２月	御浜町 入学数	紀宝町 ７月	紀宝町 １２月	紀宝町 入学数	入学数小計		尾鷲市 ７月	尾鷲市 １２月	尾鷲市 入学数	紀北町 ７月	紀北町 １２月	紀北町 入学数	入学数小計	入学数合計
木本高校		160	71.0	65.3	65.3	57.7	46.2	41.8	51.8	37.3	36.1	49.0	74.9	7.4	5.8	5.8	6.1	2.0	2.0	4.1	28.6
紀南高校		80	9.0	9.9	8.9	32.1	35.9	39.2	26.5	30.1	33.7	25.9		2.5	4.2	5.0	3.0	3.0	2.0	3.6	15.7
尾鷲高校		160	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		74.4	74.2	74.2	53.5	49.0	48.0	62.3	28.4
東紀州地域の計		400	80.0	75.2	74.3	89.7	82.1	81.0	78.3	67.5	69.9	74.9		84.3	84.2	85.0	62.6	54.0	52.0	70.0	72.7
県内	地域外県立高校		1.0	0.0	1.0	3.8	3.8	5.1	0.0	4.8	4.8	3.4	19.8	4.1	4.2	3.3	24.2	20.0	18.0	10.0	6.4
	私立高校		3.0	4.0	3.0	1.3	3.8	3.8	3.6	1.2	0.0	2.3		1.7	3.3	3.3	9.1	18.0	20.0	10.9	6.2
	高専		1.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8		0.8	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.4
県外	県外高校・高専		5.0	8.9	9.9	3.8	6.4	6.3	18.1	26.5	24.1	13.3		4.1	2.5	3.3	2.0	3.0	3.0	3.2	8.7
	（うち和歌山県）※				6.9			5.1			22.9	11.4				0.0			0.0	0.0	6.2
その他（定時制/通信制/就職など）			10.0	9.9	9.9	1.3	3.8	3.8	0.0	0.0	1.2	5.3		5.0	5.8	5.0	1.0	5.0	7.0	5.9	5.6
回答・入学者数の割合の計			100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		100	100	100	100	100	100	100	100
卒業者数（人数）					101			79			83	263				120			100	220	483

紀南地域の中学校卒業者の進路動向

資料5④



	H29.3卒	H30.3卒	H31.3卒	R2.3卒	R3.3卒	R4.3卒	R5.3卒
中学校卒業者数	339	331	304	256	274	268	263
その他（定･通･就など）	12	11	5	11	14	17	14
県内他地域 県外	54	68	59	50	50	40	52
尾鷲	3	1	0	0	0	0	0
木本･紀南	270	251	240	195	210	211	197



	H29.3卒	H30.3卒	H31.3卒	R2.3卒	R3.3卒	R4.3卒	R5.3卒
	100	99.9	100	100	100	100	100
その他（定･通･就など）	3.6	3.3	1.6	4.3	5.1	6.3	5.3
県内他地域 県外	15.9	20.5	19.4	19.5	18.2	14.9	19.8
尾鷲	0.9	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
木本･紀南	79.6	75.8	78.9	76.2	76.6	78.7	74.9

東紀州地域　中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減）

資料６

令和5年5月1日　教育政策課調べ

		R 2.3 卒業	R 3.3 卒業	R 4.3 卒業	R 5.3 卒業	R 6.3 現中3	R 7.3 現中２	R 8.3 現中１	R 9.3 現小６	R 10.3 現小５	R 11.3 現小４	R 12.3 現小３	R 13.3 現小２	R 14.3 現小１
尾鷲市	卒業者数	118	130	127	120	119	106	101	119	87	84	68	88	72
	前年度対比		12	−3	−7	−1	−13	−5	18	−32	−3	−16	20	−16
	R5.3対比					−1	−14	−19	−1	−33	−36	−52	−32	−48
北牟婁郡	卒業者数	110	112	121	100	92	76	96	78	70	81	72	61	65
	前年度対比		2	9	−21	−8	−16	20	−18	−8	11	−9	−11	4
	R5.3対比					−8	−24	−4	−22	−30	−19	−28	−39	−35
小計	卒業者数	228	242	248	220	211	182	197	197	157	165	140	149	137
	前年度対比		14	6	−28	−9	−29	15	0	−40	8	−25	9	−12
	R5.3対比					−9	−38	−23	−23	−63	−55	−80	−71	−83
熊野市	卒業者数	113	117	119	101	106	97	104	107	106	123	102	104	84
	前年度対比		4	2	−18	5	−9	7	3	−1	17	−21	2	−20
	R5.3対比					5	−4	3	6	5	22	1	3	−17
南牟婁郡	卒業者数	143	157	149	162	153	137	142	129	138	134	102	152	104
	前年度対比		14	−8	13	−9	−16	5	−13	9	−4	−32	50	−48
	R5.3対比					−9	−25	−20	−33	−24	−28	−60	−10	−58
小計	卒業者数	256	274	268	263	259	234	246	236	244	257	204	256	188
	前年度対比		18	−6	−5	−4	−25	12	−10	8	13	−53	52	−68
	R5.3対比					−4	−29	−17	−27	−19	−6	−59	−7	−75
東紀州合計	卒業者数	484	516	516	483	470	416	443	433	401	422	344	405	325
	前年度対比		32	0	−33	−13	−54	27	−10	−32	21	−78	61	−80
	R5.3対比					−13	−67	−40	−50	−82	−61	−139	−78	−158

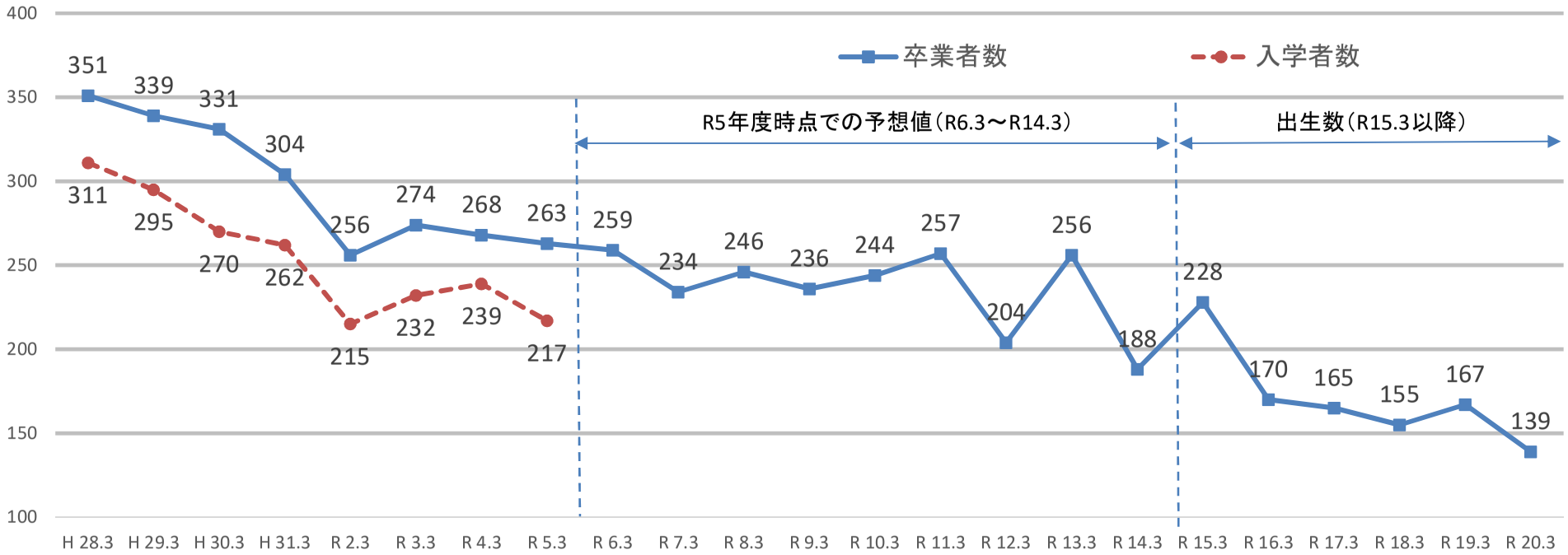
≪参考≫

木本高校	募集定員	160	160	160	160	160
	欠　　員	2	0	1	20	
紀南高校	募集定員	80	80	80	80	80
	欠　　員	23	8	0	3	
学級数	木本・紀南	４・２	４・２	４・２	４・２	４・２

紀南地域の入学定員の推移予測	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度	Ｒ１１年度	Ｒ１２年度	Ｒ１３年度	Ｒ１４年度
	６学級	５学級	５学級程度	５学級程度	５学級程度	６学級程度	４学級程度	６学級程度	４学級程度

熊野市・南牟婁郡中学校卒業者数（予測）と木本・紀南両高等学校への入学者数

資料７



熊野市・南牟婁郡の出生数

	H28年度出生 現小1	H29年度出生 5～6才	H30年度出生 4～5才	R元年度出生 3～4才	R2年度出生 2～3才	R3年度出生 1～2才	R4年度出生 0～1才
熊野市	73	108	60	87	82	68	54
御浜町	42	45	39	25	20	38	29
紀宝町	83	75	71	53	53	61	56
合　計	198	228	170	165	155	167	139

木本・紀南両高等学校への入学者人数は、熊野市・南牟婁郡中学校卒業者数と比較すると、地域外へ進学する生徒や就職する生徒等が一定存在することから、毎年40人～50人少ない状況です。

資料８

令和５年度の協議について

１　これまでの協議

・紀南地域では少子化などの社会の変化が激しく、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、平成２４年度から紀南地域高等学校活性化推進協議会を設置し、地域の県立高校のあり方や活性化の方策等について協議を続けてきました。

・南部地域を中心に中学校卒業者数の減少が予測される中、平成２９年３月策定の「県立高等学校活性化計画」（平成２９～令和３年度）に基づき、紀南高校においては学校関係者による活性化協議会を設置し、地域と一体となった活性化の取組を推進するとともに、当協議会では紀南高校に加え、木本高校の活性化の取組についても協議をしてきました。

・紀南高校をはじめ県内の小規模校においては、これらの取組によって地域と連携した学びが進み、教育内容は充実しましたが、多くの学校では入学者の増加には至っていない状況となり、計画の最終年度である令和３年度には、各学校の活性化協議会において総括的な検証を行いました。

・こうしたことをふまえ策定した新たな「県立高等学校活性化計画」（令和４～８年度）に基づき、令和４年度の協議会では、１５年先の当地域の中学校卒業者数の減少の状況を確認しました。

・協議では、これまでの県内の全日制高校の統合の状況を確認したうえで、統合の形態により想定される学びや部活動の状況、通学環境の現状に加え、学級規模による教育環境の比較や全国の１学級規模の高校の状況を資料として検討を進めるとともに、中学生や保護者へのアンケートを実施しました。

・アンケート結果では、中学生、保護者ともに、進学や就職など多様な進路に応じた学びを選択できる教育、自分の将来を選択する力を育む教育、社会性や協調性・コミュニケーション能力を育む教育を求める声が多く、中学生では多くの人との出会いを求める声も多い状況でした。

・６回の協議では様々な意見が出され、全員が賛成できる結論に到達することは難しいものの、関係する中学生にできるだけ早く方針を示すこと、新体制への準備期間が必要となることを勘案し、令和７年度に紀南地域の高等学校の１学年の総学級数が５学級程度になる際に想定される学びと配置のあり方について方向性を取りまとめました。

２　令和４年度の協議のまとめ

※詳細は別添資料「令和４年度紀南地域高等学校活性化協議会のまとめ」を参照

・まとめを策定するにあたり、これまでの協議とアンケート結果をふまえ、紀南地域の高校に求められる学びを、「多様な進路に応じた学びの選択肢の充実」、「社会性や協調性、コミュニケーション力の育成」、「学校行事や部活動の充実」、「多様な生徒１人ひとりに対応したきめ細かな指導の充実」の４点に集約しました。

・この４点をふまえ、令和７年度の５学級規模における学びと配置のあり方について、以下のように取りまとめました。

・中学校卒業者数が減少していく中にあっても、地域の様々な分野で活躍できる人材を育成する視点を大切にして、大学進学や就職などの進路希望の実現につながる学びとともに、多様な生徒に応じて地域と連携したきめ細かな学びを提供する。
・多様な学びの選択肢の提供や豊かな社会性・人間性の育成、学校行事や部活動の充実のためには、一定の学級規模や学校運営の工夫が必要である。
・地域と連携したきめ細かな学びについては、木本高校及び紀南高校それぞれで先駆的に取り組んできた活動を継承する。
・令和７年度に地域全体で１学年の総学級数が５学級となる中、こうした学びを実現するためには、２校を一体的に運営するとともに、これまでのきめ細かな学びを継続できる高校としていく必要がある。
・以上のことから、木本高校と紀南高校は一つの高校に統合し、それぞれの校舎を活用した校舎制とすることとする。学科については、普通科３学級を木本校舎に配置し、総合学科１学級を木本校舎及び紀南校舎にそれぞれ配置する。
・今後、各校舎で学習することを基本としつつ、両校舎が一体となった活動や連携した授業も行うこと、学校行事や部活動がより魅力的で少しでも多様な活動となるようにすること、教員や生徒が必要に応じて両校舎間を行き来すること、教職員が校舎・学科・課程の枠を越えて連携することなどについて、関係者で具体的な内容と方策を検討する。

３　令和５年度の協議の進め方

・現在、令和４年度のまとめに加え、これまで積み重ねられてきた議論も大切にしながら、新高等学校が魅力的な学校となるよう、両校の校長を中心に職員が協力して新高等学校ワーキング会議で議論しているところです。
・検討にあたっては、両校長が地域の市町教育委員会や中学校、同窓会やＰＴＡ、学校評価委員会、学校運営協議会などの関係者から広くご意見をいただき、その想いを受け止めながら協議を進めています。また、今後は広く地域の皆さんからも意見を聞く機会を設けることとしています。
・こうした中、令和４年度の協議のまとめを策定された当協議会において、ワーキング会議の検討状況等について報告するとともに、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えています。

４．今年度の協議会開催スケジュール

（１）第１回協議会（７月２１日）
・木本高校、紀南高校の活性化取組について
・紀南地域新高等学校について
・その他

（２）第２回協議会（１１月頃）（予定）
・紀南地域新高等学校について
・第１回校名選定委員会の概要について
・その他

資料９

紀南地域新高等学校ワーキング会議の検討状況

１　ワーキング会議について

（１）基本的な考え方

・令和４年度の協議会のまとめでは、地域に関する詳細なデータ、中学生や保護者を対象にしたアンケートをもとに、これまでの協議もふまえ、これからの紀南地域の高校に求められる学びについて整理したうえで、令和７年度の５学級規模における学びと配置のあり方について取りまとめられている。

・検討にあたっては、まとめに込められた地域の想いを大切にし、それにできるだけ応えられるよう進めることとする。

（２）検討方針

・新校においては、地域の様々な分野で活躍できる人材を育成する視点を大切にして、大学進学や就職などの進路希望の実現につながる学びとともに、多様な生徒に応じて地域と連携したきめ細かな学びを提供できるようにすることをめざす。

・また、多様な学びの選択肢や豊かな社会性・人間性の育成、学校行事や部活動を充実するために学校運営を工夫する。

・こうした学びを実現するための具体的な内容と方策は、２校を一体的に運営するとともに、これまでのきめ細かな学びを継続できるよう検討を進めることとする。

（３）会議の構成

・ワーキング会議は、木本高校と紀南高校の両校長をリーダーとし、両校の教職員および県教育委員会事務局担当者から構成する。

（４）検討のための意見聴取

・検討にあたっては、２校が協力して、学校や生徒、地域の実情をふまえながら進めることとし、スチューデント・ファーストの考え方に基づき、これからの入学生である中学生をはじめ、関係者から意見を聞き取る。

・検討状況については地域協議会をはじめ、各校のＰＴＡ、同窓会、学校評価委員会、学校運営協議会等とも共有し、意見を聞き取りながら丁寧に進めることとする。

・また、地域の皆さんが学校に対する想いを伝えることができる機会を確保し、学校と地域の対話を通じながら地域から信頼される新校をめざし検討を進める。

２　検討状況

（１）検討の進め方

・新校の「基本理念」、「めざす学校像」、「育みたい生徒像」等については、意見聴取に向け、令和４年度の協議のまとめをふまえた、新校のコンセプト案を策定する。

・生徒や保護者、地域、教育関係者からの意見聴取ののち、関係者の思いを反映させながら新校のコンセプトを定め、生徒や保護者、地域に向けて公表することとする。

・このことが取りまとめられてから、学校に係る具体的な内容と方策の検討を進め、その内容についてもできるだけみなさんの意見を聞けるようにする。

・その際、「各校舎で学習することを基本としつつ、両校舎が一体となった活動や連携した授業も行うこと」、「学校行事や部活動がより魅力的で少しでも多様な活動となるようにすること」、「教員や生徒が必要に応じて両校舎間を行き来すること」、「教職員が校舎・学科・課程の枠を越えて連携すること」などについて、具体的な内容と方策も検討する。

・ただし、中学生や保護者の関心が高い、部活動や入試制度については、現中学３年生が進路を決定する際にも参考にできるよう、早い時期に方針が示せるよう検討を進める。

（２）基本理念、めざす学校像、育みたい生徒像について

（全体）

・令和４年度の協議会のまとめにある「これからの紀南地域の高等学校に求められる学びについて」をふまえていることが分かるような構成とする。

・これまでの地域と連携した取組を継承し、「開かれた学校」としていきたい。

・この地域の生徒が一つの高校に集まることを生かし、互いに切磋琢磨し、地域外ともつながりながら、社会で生き抜くための資質・能力を身につけられる視点を加える。

・これまでの地域と連携した取組を継承し、地域での学びなどを通じて、この地域をよく知り、地域への愛着心を育む視点を加える。

・生徒の主体性を育むために、様々な教育場面で選択肢を設けていくことが必要である。

（各学科の学び）

【普通科】

・地域における進学ニーズに応えるため、進学補習、個々に応じた丁寧な対応など、これまでの木本高校の学びを継承しつつ、難関大学から専門学校まで、より多様な進学先に対応する教育課程の編成を検討する。

【総合学科】

・両校舎はともに一人ひとりに応じたきめ細かな指導を充実させるとともに、一つの学校の同じ学科として、一体となった学びも行うこととする。
・校舎ごとに独自の系列を設けることとし、情報ビジネス系、自身の興味関心を広げ深める学びを中心とした教養系、地域での学びを中心とした探究学習系、医療・看護・介護系などの系列について検討する。
・両校の特色ある学びである紀南高校のインターンシップ、木本高校の小学校との連携は新校においても実施できるよう検討する。

（３）部活動について

・現在、両校に設置されている部活動は原則設置する方向で検討する。
・部活動の新設については、教員数の減少も考慮しつつ、地域と連携することで中学生のニーズにできる限り応えられるよう慎重に検討する。
・平日における両校舎の生徒の合同練習の具体的な方法について引き続き検討する。
・令和７年度と８年度については、競技ごとに単独または合同チームによる大会参加が可能となるため、状況に応じてそれぞれの部活動で対応することとする。

【参考】大会に単独または合同の編成の例　（令和７年度、令和８年度の形）

		木本（在校生）	紀南（在校生）	新校
A　３校合同		合	合	合
B　２校合同、１校単独	ア	合	合	単
	イ	合	単	合
	ウ	単	合	合
C　３校単独		単	単	単

（４）入学者選抜について

・総合学科のくくり募集については、地域からの要望も大きいところであるが、年度によってどちらかの校舎で大きく欠員が生じる可能性もあり、生徒の学習環境の確保や学びの選択肢の維持の観点から、慎重に検討する必要がある。
・一人ひとりに応じた丁寧な指導については、両校舎の総合学科で取り組めるよう検討する。

（５）その他

（制服）

・ジェンダーフリーの観点を取り入れることや、生徒がさまざまな活動をする際の機能性についても考慮して検討する。

・新校としての統一感が得られることから、新しい制服への変更を検討する。

・新しい制服を検討する際には、アンケートなどを実施し、子どもたちの意見を反映させられるよう検討する。

３　今後の進め方

報道資料提供を行い、両校を窓口として新校の学びについて広く意見を聞かせていただき、さまざまな意見を参考としてワーキング会議でさらに検討を進める。

新校の学びについてご意見を下さい（７月○日～８月○日までの予定）
ご意見はメール、電話、Ｆａｘまたは直接学校へ

木本高校　メールアドレス：hkimotad@mxs.mie-c.ed.jp
電話：0597-85-3811　　Ｆａｘ：0597-85-2002

紀南高校　メールアドレス：hkinanad@mxs.mie-c.ed.jp
電話：05979-2-1351　　Ｆａｘ：05979-2-3905

９月　新校コンセプトの公表
１０月　両校の共催による新校コンセプトの説明会を開催

資料１０

紀南地域新高等学校ワーキング会議概要

１　これまでワーキング会議の概要について

（１）第１回ワーキング会議

日時：令和５年３月２２日（水）１５：００～１７：００
場所：紀南高校会議室

令和４年度の紀南地域協議会のまとめをふまえ、先進校視察の報告も参考にしながら、令和７年度開校となる紀南地域新高等学校の基本理念、めざす学校像および育みたい生徒像について協議しました。
主な意見は次のとおりです。

≪基本理念、めざす学校像、育みたい生徒像について≫

・授業や学校行事、部活動などにおいて、両校舎が連携した取組を進めることは新校の魅力につながる。
・この地域において、木本高校と紀南高校はそれぞれが役割を果たしてきており、新校においても、両校が実践してきた学びを継承していくことが大切である。
・この地域において大学進学に対応した学びは必要である。また、不登校傾向の生徒や特別な支援を必要とする生徒が増えてきているため、学び直しやきめ細かな指導、支援も必要である。
・先進校視察で訪問した宮津天橋高校と同様に、学校としての共通理念のもとに、各校舎それぞれに育みたい生徒像を掲げるとよいのではないか。

≪新高等学校のＰＲについて≫

・地域の子どもを地域で育てることを大切にして、進学希望や就職希望の生徒、特別な支援を必要とする生徒など、どの生徒に対しても指導が充実している学校であることを打ち出すべきである。
・小学生にも新校のことをＰＲするなど、小中学校との連携を進めるべき。
・統合にむけて、今年度から２校間の相互交流などを行い、そのことを地域に向け発信してはどうか。

（２）第２回ワーキング会議
日時：令和５年４月２５日（火）１６：１５～１７：３０
場所：紀南高校会議室

ワーキング会議や各事項を検討するための専門部会の構成委員を定めるとともに、第１回に引き続き、新校の基本理念、めざす学校像および育みたい生徒像について検討しました。
主な意見は次のとおりです。

≪基本理念、めざす学校像、育みたい生徒像について≫
・新校全体で共通して大切にしたい学びと、学科や校舎ごとに進めていく学びについて検討していく必要がある。
・生徒がプレゼンテーションを行うなど、さまざまな活動の場を提供することで、それぞれの可能性を引き出すことができる学びを実現したい。
・地域の生徒が一つの高校に集まることを生かし、互いに切磋琢磨しながら、協調性やコミュニケーション能力など社会で生き抜くための資質・能力を身につけることができる学校としたい。
≪具体的な取組について≫
・地域への理解を深め、愛着を育むことができるよう、これまでの両校の取組を生かしながら、より効果的な地域課題解決型学習を実施していきたい。
・生徒が視野を広げられ、より深い学びとなるよう、ＩＣＴなどを活用し、積極的に地域外とも交流をもてるようにしたい。
・地域だけではなく、グローバルな視点も持った生徒を育てられるよう、グローカル※をキーワードにして、語学研修などの活動を検討してはどうか。

※グローカル･･･グローバル（global）とローカル（local）からの造語。国境を越えた地球規模の視点と草の根の地域の視点で、さまざまな問題を捉えていこうとする考え方。

（３）第３回ワーキング会議
日時：令和５年６月１日（木）１６：１５～１７：４０
場所：紀南高校会議室

引き続き、新校の基本理念、めざす学校像および育みたい生徒像について協議を進め、両校の関係者（ＰＴＡ、同窓会、学校関係者評価委員会、学校運営協議会等）や市町教育委員会、中学校の意見を聞き取るため、紀南地域協議会やワーキング会議の協議をふまえた新校のコンセプト案【追加資料】を作成しました。
また、各専門部会における検討状況を共有し、意見交換を行いました。
主な意見は次のとおりです。

≪基本理念、めざす学校像、育みたい生徒像について≫
・ポンチ絵には、木本校舎の普通科、木本校舎と紀南校舎の総合学科、木本校舎の定時制のそれぞれについて育みたい資質・能力を表記してはどうか。
・協働的な学習、少人数授業、授業におけるユニバーサルデザイン※はどちらの校舎でも取り組むべきである。
・防災教育は、「住み続けられる街づくり」とするなど表現を変更してはどうか。

※授業におけるユニバーサルデザイン･･･
学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず，すべての子どもが，楽しく「わかる・できる」ように工夫・配慮された通常学級における授業のデザイン

≪新校が大切にしたい「つながる」ことについて≫
・「仲間とつながる」では、両校の連携を進めるために、バスなどを利用した生徒の移動に加え、オンラインの活用も検討していく必要がある。
・「地域とつながる」では、今までの両校舎の取組を継承することはもとより、２校舎が一体となった活動を行うことで、各校舎の学びを共有できるとよい。
・「全国・世界とつながる」では、オンラインを含めた留学だけでなく、それにつながる語学研修も含まれるのではないか。また、東海大会に出場している部活動もあることから、部活動の強化も含めてはどうか。

≪新しい取組の検討に向けて≫
・これまでの取組を継続することが伝わると、中学生は安心して進学できるのではないか。そのためにも、両校の取組を整理し、さらに改善するなどしてＰＲすることが大切である。
・業務量が増えることも想定されるが、この機会に少しでも新しいことに取り組むべきではないか。

≪総合学科について≫
・特色ある系列や選択科目を設定できる総合学科では、今の小中学生が新高校に何を求めているのかを把握することも大切である。
・総合学科は２年次から系列を決められることが魅力であるが、校舎により系列が異なることとの整理が必要である。
・新校の総合学科では、両校舎共通の学びと各校舎の特色ある学びについて、具体的に検討する必要がある。
・入学者選抜について、中学生の保護者から、総合学科は校舎別に志願できるのか気になるとの声を聞いているが、各校舎の特色に基づき、校舎ごとに志願できるようにするほうがよいのではないか。

（４）第４回ワーキング会議
日時：令和５年６月２９日（木）１５：００～１６：５５
場所：場所：紀南高校会議室

入学前の進路意識や制服のデザインについて、各専門部会における協議の参考とするために、地域の小中学生にアンケート調査を行うこととし、質問内容や対象、実施方法について協議を行いました。
主な意見は次のとおりです。

≪アンケートの質問内容について≫
・「高校に進学するときに何を重視するか」という質問を設けるなどして、今の子どもたちのニーズをつかんではどうか。
・制服についてのアンケートは、ジェンダーフリーの観点などの新しい時代を意識した学校としてアピールするために、私服という選択肢を追加してはどうか。
≪対象および実施方法について≫
・小学校５年生くらいから和歌山県の私立中学校への進学について考えはじめ、その中学校からそのまま和歌山県の高校へ進学するケースが一定数あることから、中学校１、２年生だけではなく、小学校５、６年生も対象としてはどうか。
・児童生徒には１人１台端末を利用して回答してもらうが、接続の不具合も想定し、紙でも回答できるように準備すべきである。
・質問はわかりやすい表現にするとともに、回答の選択肢についても工夫が必要である。
・アンケートは新校を検討する際の参考とするが、その結果のみをもって何らかの決定をすると誤解しないよう注記を加えたほうがよいのではないか。

２　各専門部会における検討状況について

（１）教務部会

≪普通科について≫

・１学級を特進クラスとし、これまでの木本高校の学びを継承していくことを基本として検討する。

≪総合学科について≫

・各校舎に２～３系列を設置することとし、具体的な系列の内容を検討する。
・例えば、週１日だけ木本校舎の校時を紀南校舎に合わせて、校舎間の交流を行ってはどうか。その日の時間割に、選択科目、「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」を置き、生徒は希望する選択科目のある校舎で学ぶことも考えられる。
・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」については、両校舎共通のテーマとして、キャリア教育、防災学習、地域学習を取り入れたい。学習成果の発表会を、会場を借りて両校舎合同で行うことも検討していく。

（２）生徒指導部会

≪制服について≫

・一つの新しい学校となることから、生徒の一体感を醸成するためにも、校舎別ではなく両校舎統一としてはどうか。
・ジェンダーフリーやさまざまな活動をする際の機能性の観点から、新しい制服に変えるとともに、スカートとスラックスを選べるようにしてはどうか。
・新しい制服にする場合は、価格については十分な配慮が必要である。
・新しい制服のデザインを検討する際には、アンケート調査を実施して、中学生の意見も参考にしたい。

≪部活動について≫

・現在両校に設置されている部活動については、そのまま設置する方向で検討する。
・新しい部活動の設置については、教員数が減ることも考慮しながら慎重に検討する必要がある。
・平日における両校舎間の合同練習の方法について検討するとともに、今年度から両校で連携できることを試行的に行っていく。

（３）キャリア教育部会

≪キャリア教育全体計画について≫

・普通科については、木本高校をベースに大学への進学を中心とし、総合学科については、紀南高校をベースに就職と専門学校への進学を中心として、年間のキャリア教育計画を新校の理念に沿って考えていく。
・インターンシップ、高大連携、地域産業との連携など、これまで両校で行ってきた活動を整理し、魅力化を図る。

（４）総務部会

≪基本理念およびめざす学校像、育みたい生徒像について≫

・１つの学校になったからこそできること(メリット)をアピールしたい。学習、学校行事、部活動の三本立てで、両校舎間や地域との「つながり」をアピールしてはどうか。

・部活動を両校舎に共通する「つながり」として位置付けたい。

・「つながり」と「主体性」をキーワードとしてはどうか。いろいろな場面で選択肢を提示し、生徒が自ら選択できるようにすることが、「主体性」の育成につながるのではないか。

≪学びについて≫

・普通科については、選抜コースは国公立大学や難関私立大学への進学をめざし、普通コースは私立大学や短大、専門学校への進学をめざすとして進めてはどうか。

・総合学科については、系列や選択科目の開設でそれぞれの校舎の特色を出してはどうか。また、両校舎が一体となって行う活動についても検討したい。

・総合学科は２年次から系列を決められるのが特徴であるが、校舎により系列が異なることとの整理が必要である。

≪入学者選抜について≫

・入学者選抜の方法については、校舎別募集とくくり募集について、それぞれ想定される状況を整理し、慎重に検討を続けていく。

資料１１

紀南地域新高等学校校名選定委員会について（案）

１　紀南地域新高等学校の校名について

紀南地域新高等学校の開校にあたり、生徒及び卒業生が誇りと愛着をもち、地域の方々をはじめ県民が親しみやすい校名を選定するため、紀南地域新高等学校校名選定委員会を設置する。委員会では校名案を県民等から広く公募し、応募のあった校名案について、検討・審議を行う。

２　今後の予定

令和５年　８月　県教育委員会事務局が校名委員会設置要綱及び委員構成等について検討
　　９月（新校コンセプトの公表）
　　９月　第１回校名選定委員会にて校名に係る事項について検討
　　（公募の実施方法、選定の手順、スケジュール等）
９月～１０月　公募の実施（約１カ月程度）
　　１１月　第２回校名選定委員会にて校名候補の絞り込み（非公開）

＜年度内を目途に校名を決定＞

＜参考＞

○ 名張青峰高校の校名決定に至る経緯（平成２９年４月開校）

平成２６年	８月	校名選定委員会設置要綱・委員について検討 ＊委員：学識経験者１名、地域有識者１名、市教育長２名、小中学校長代表２名、ＰＴＡ関係者４名、同窓会関係者２名、関係県立高等学校長２名
	９月１６日	第１回校名選定委員会
	９月２２日 ～１０月２１日	校名募集（県・市の広報、ホームページに掲載） （応募は、はがき、ＦＡＸ、E-mail による）
	１１月　７日	第２回校名選定委員会　校名候補の選定（非公開）
	１１月１７日	教育委員会定例会　校名候補に係る報告題（非公開）
平成２７年	１月３０日	教育委員会定例会　条例改正議案として審議（非公開）
	２月　２日	校名を「名張青峰高校（仮称）」として公表
	２月１６日	県議会定例会　条例改正議案を上程
	３月１０日	県議会教育警察常任委員会　議案補充説明
	３月１７日	県議会定例会　条例改正の議決、校名の正式決定

○ 名張新高等学校校名選定委員会設置要綱

（設　置）

第１条　　県立名張桔梗丘高等学校と県立名張西高等学校を統合し、平成２８年４月に新しい高等学校を開校するにあたって、校名案を広く県民等から公募し、応募のあった校名案を検討・審議するため、名張新高等学校校名選定委員会（以下「委員会」）を設置する。

（所掌事項）

第２条　　委員会は、県民等から応募のあった校名案を検討・審議し、校名候補を選定して、三重県教育委員会に提案する。

（組　織）

第３条　　委員会は、学識経験者、教育関係者、地域関係者、学校関係者等で組織する。

２　委員会には、委員長１名と副委員長１名を置く。

３　委員長及び副委員長は、委員の中から互選により決める。

４　委員長は会議を総理する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時は職務を代行する。

（委員の任期）

第４条　　委員の任期は、委嘱の日から検討・審議が完了する日までとする。

（会　議）

第５条　　委員会は、委員長が招集し、委員長が議事運営を行う。

２　委員会の庶務は県教育委員会事務局および名張新高等学校準備事務局において処理する。

（その他）

第６条　　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附　則

この要綱は、平成２６年９月２日から施行する。